

現場発の AI エージェントを標準化・全社展開する独自モデルを構築

～生成 AI 導入半年で活用率 95%・月当たり 4.7 億円相当の業務削減を達成～

株式会社レゾナック・ホールディングス（代表取締役社長 CEO：高橋秀仁、以下、当社）は、現場で生まれた生成 AI 活用の取り組みを全社へ展開する仕組みを構築し、業務プロセス変革を加速しています。2025 年 10 月の導入から約半年で生成 AI 活用率は 95%に達し、製造部門や研究開発部門、間接部門など広い領域で定着しました。その結果、月当たり約 9 万時間、金額換算で約 4.7 億円相当の業務削減を達成しています。*

今回の取り組みの特長は、生成 AI の利用促進にとどまらず、AI エージェントを活用した業務変革を全社的に推進している点にあります。本社部門では、会議の調整や、文章・資料の作成、コミュニケーション、学習・分析など幅広い業務領域で AI エージェントを展開し、従業員の日常業務や意思決定を支援しています。各事業所や部門の従業員が自らの業務課題を解決するために作成した AI エージェントの活用も進んでおり、現場で生まれたエージェントの中で、効果や汎用性が高いものについては、本社部門が品質向上・標準化したうえで全社展開しています。このように、①本社による生成 AI の提供、②現場での AI エージェント創出、③本社による標準化と全社展開、というサイクルを継続的に回すことで、従来のトップダウン型と現場の実務に即したボトムアップ型のアプローチを融合した独自の生成 AI 活用モデルを構築しています。

事例として、安全活動や専門知識の継承などの属人化しやすい業務に対しても、業務プロセス全体を見直すために生成 AI 活用を進めています。例えば、危険予知（KY）活動では、生成 AI による現場の安全面の採点や改善のためのフィードバックを自動化し、作業プロセスにかかる時間を約 60 分の 1 に短縮しました。また、化学品法規制分野では、教育資料やテストの作成・実施・集計を自動化し、従来の約 5 分の 1 の時間で教材作成が可能になりました。このほかにも、設備導入、在庫管理、研究開発支援などさまざまな領域で AI エージェントの活用が進んでおり、このような取り組みにより、現場負荷の軽減と人材育成の高度化、業務効率の向上等を実現しています。

これらの取り組みの結果、当社では、単なる作業の効率化にとどまらず、業務プロセスそのものの構造的な変革が進んでいます。今後も、現場から生まれた生成 AI 活用の知見や AI エージェントを全社へ展開するとともに、全社横断で AI を活用した業務改革を推進することで、業務プロセス単位での変革をさらに加速していきます。

当社は「自律的で創造的な人材の活躍と文化の醸成」をサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）の一つに掲げています。本取り組みは、現場の一人ひとりが主体的に課題に向き合い、新たな業務のあり方を創出するとともに、その成果を全社へ展開することで、より大きな価値創出につなげた事例です。今後も生成 AI を活用した全社横断の業務改革を推進し、生産性の向上や価値創造を図ってまいります。

* 本数値は、対象者 2,405 名のアンケート結果および業務実績をもとに算出。

以上

【Resonac（レゾナック）について】

レゾナックは、半導体・電子材料、モビリティ、イノベーション材料、ケミカル等を展開し、川中から川下まで幅広い素材・先端材料テクノロジーを持つ機能性化学メーカーです。2023 年 1 月に昭和電工と旧日立化成が統合し、誕生しました。社名の「Resonac」は、英語の「RESONATE：共鳴する・響き渡る」と、Chemistry の「C」の組み合わせです。レゾナックは「共創型化学会社」として、共創を通じて持続的な成長と企業価値の向上を目指しています。2025 年度の売上高は約 1 兆 3 千億円、うち海外売上高が 57%を占め、20 以上の国や地域にある製造・販売拠点でグローバルに事業を展開しています(2026 年 1 月時点)。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

株式会社レゾナック・ホールディングス <https://www.resonac.com/jp/>

◆ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社レゾナック・ホールディングス

ブランド・コミュニケーション部 メディアリレーショングループ [お問い合わせフォーム](#)